

2023 年 9 月 5 日

TDB 景気動向調査(全国)— 2023 年 8 月調査 —

株式会社帝国データバンク 情報統括部

https://www.tdb.co.ip

景気動向オンライン https://www.tdb-di.com

景気は小幅に悪化、台風上陸で人流・物流が停滞

~ ガソリンなどエネルギー価格の上昇が消費マインドを直撃 ~

(調査対象 2 万 7.667 社、有効回答 1 万 1.571 社、回答率 41.8%、調査開始 2002 年 5 月)

調査結果のポイント

- 1,2023 年 8 月の景気 DI は前月比 0.3 ポイント減の 44.9 となり、2 カ月ぶりに悪化 した。景気は、ガソリンを含むエネルギー価格の上昇や台風上陸による人流・物 流の停滞などもあり、小幅なマイナスとなった。今後の国内景気は、好材料と悪 材料が混在するなかで、おおむね横ばい傾向で推移するとみられる。
- 2. 本格的な夏シーズンを迎え各地で盛り上がりをみせたが、台風の影響やエネルギ 一価格の高騰などにより 10 業界中 7 業界で悪化した。地域別では、10 地域中 7 地域が悪化、1 地域が改善した。台風の上陸により交通網が寸断され、帰省や旅 行などを含めヒト・モノの移動の混乱が下押し要因となった。また燃料価格の高 騰も悪材料。他方、インバウンド需要は好調だった。規模別では、「大企業」と「中 小企業」が2カ月ぶりに悪化、「小規模企業」は3カ月ぶりに改善した。
- 3. 価格転嫁率は全体で43.6%(2023年7月)。前回調査(2022年12月)と比較し て上昇がみられるも、依然として4割程度の転嫁状況にとどまる。



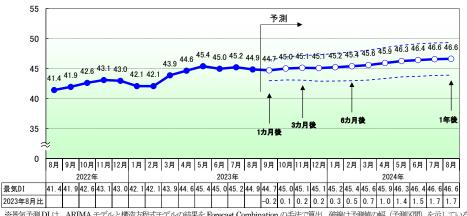
< 2023 年 8 月の動向: 小幅悪化>

2023 年 8 月の景気 DI は前月比 0.3 ポイント減の 44.9 となり、2 カ月ぶりに悪化した。 景気は、ガソリンを含むエネルギー価格の上昇や台風上陸による人流・物流の停滞なども あり、小幅なマイナスとなった。

本格的な夏シーズンのなか、お盆休みが集中するタイミングで台風が上陸。鉄道や航空 便の運休、高速道路の通行止めなど、交通インフラが被害を受け、人流や物流がストップ した。旅行・観光業への影響は大きく、宿泊業や飲食、娯楽サービスなどを含む観光 DI が 悪化した。さらに、生活必需品の価格上昇のほか、ガソリン・軽油を含むエネルギー価格 の高騰もマイナス要因となった。他方、猛暑による関連グッズの販売が好調だったほか、 半導体供給不足の緩和は自動車生産などで好材料となった。

〈 今後の見通し: 横ばいで推移 〉

今後は、賃上げの広がりやインバウンドの拡大などがプラス材料となろう。経済・社会 システムが再構築されていくなかで、DX や脱炭素化の推進、自動化・省力化投資の拡大 が見込まれる。他方、生活必需品や電気代を含むエネルギー価格の上昇などは家計の節約 志向を高める可能性がある。人手不足や中国経済の減速、地政学的リスクなども景気の下 押し要因となろう。また金融市場の動向は注視する必要がある。今後の国内景気は、好材 料と悪材料が混在するなかで、おおむね横ばい傾向で推移するとみられる。



※景気予測 DI は、ARIMA モデルと構造方程式モデルの結果を Forecast Combination の手法で算出

業界別:10 業界中7 業界が悪化、台風の上陸など天候不順がマイナス材料に

- ・本格的な夏シーズンを迎え各地で盛り上がりをみせたが、お盆の時期に台風が上陸し人流 や物流がストップ。さらに、観光施設の臨時休業などが景気の下押し要因となった。加え て長期化するエネルギー価格の高騰もマイナス材料となり、10業界中7業界で悪化した。
- ・『サービス』(50.8) …前月比0.9 ポイント減。7カ月ぶりに悪化。各地で全国旅行支援が終了したことやお盆の時期に直撃した台風の影響などで「旅館・ホテル」(同1.1 ポイント減)は2カ月ぶりに悪化した。猛暑や天候不順に左右されたゴルフ場を含む「娯楽サービス」(同0.5 ポイント減)も同じく2カ月ぶりの悪化。値上げの影響を受け節約行動がマイナス要因となり「飲食店」(同3.4 ポイント減)も下向いた。他方、夏期講習などで繁忙期を迎えるとともに、「海外からの渡航制限がなくなり留学生が増加」(個人教授所)といった声が聞かれる「教育サービス」(同3.1 ポイント増)は3か月ぶりに改善した。イベント開催が活気づいてきた「広告関連」(同0.4 ポイント増)は4カ月ぶりの上向きとなった。
- ・『製造』(41.2) …同 0.3 ポイント減。2 カ月ぶりに悪化。顧客の在庫増にともない減産の影響が出ているといった声が聞かれる「電気機械製造」(同 0.1 ポイント減)は2 カ月連続で下向いた。「鉄鋼・非鉄・鉱業」(同 0.8 ポイント減)は、中国など海外経済の減速や在庫調整による生産・出荷量の減少などが響き2カ月ぶりに悪化した。「輸送用機械・器具製造」(同横ばい)は深刻な半導体供給不足が改善したものの、一部工場での操業停止が響いた。他方、ポストコロナにおいて地元の観光業やクラフトビールなどが堅調で「飲食料品・飼料製造」(同 1.4 ポイント増)は3カ月ぶりに上向いた。
- 『小売』(41.8) …同 0.1 ポイント減。4カ月連続で悪化。経費が増加するなか診療報酬の改定が追いつかず経営環境を圧迫しているなどの声もある「医薬品・日用雑貨品小売」(同2.7 ポイント減)は4カ月連続で悪化した。またガソリン価格の値上がりなどで「専門商品小売」(同0.1 ポイント減)は2カ月連続で下向いた。物価上昇にともなう消費者の節約志向の高まりの影響などを受けた「繊維・繊維製品・服飾品小売」(同0.2 ポイント減)は4カ月ぶりに悪化した。他方、消費者の節約志向が続くなか、帰省シーズンにより一時的な需要回復がプラス要因に働いた「飲食料品小売」(同1.6 ポイント増)などが改善した。
- 『不動産』(49.6) …同 0.8 ポイント増。3 カ月ぶりに改善。「全般的に買い意欲が続いている」(建物売買) や「来店客数、売り上げともに回復基調にある」(貸事務所) といった声が多く聞かれた。また、「福岡の都市再開発事業・天神ビッグバンの影響もあるが、売買の動きもよい。価格も相場以上である」(不動産管理) というように各地の再開発事業が好材料だった。他方、価格が上がり過ぎて取引件数が少ないといった声も一部であがっている。

		1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
		22年	9月	10月	11月	12月	23年	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
		8月	07,	107,	11/1	15/,	1月	27,	0,,	174	0,,	0,,	.,,	0,,	1117176
農・林・水産		35. 9	35.8	36.4	37.7	37. 9	37.4	38.9	41.6	42.2	44.8	46.7	42.5	43.0	0.5
金融		41.7	43.6	43.2	44.5	44.3	44.8	43.3	44.0	45.0	47.8	48.1	47.4	48.8	1.4
建設		43.3	44.0	44.2	44.9	44.6	44.1	43.7	45.5	45.6	46.9	46.8	47.8	47.4	▲ 0.4
不動産		44.8	45.3	44.0	45, 6	44.8	46.1	46.3	47.5	49.6	50.7	50.3	48, 8	49.6	0,8
	飲食料品・飼料製造	36. 1	35. 5	38. 2	38.8	38. 3	38. 1	37.0	41.1	42.0	43.7	43.6	43. 1	44. 5	1.4
	繊維・繊維製品・服飾品製造	32. 6	36. 2	35, 7	36. 5	37. 9	37. 7	39. 0	38, 6	41. 0	42. 1	42.0	43. 6	42.6	▲ 1.0
製造	建材・家具、窯業・土石製品製造	39. 8	40. 2	40.9	41. 9	41. 0	38. 0	37.6	37. 0	39. 7	39. 0	38. 4	37. 9	38. 2	0.3
322	パルプ・紙・紙加工品製造	36. 6	38. 0	40.4	40. 2	39. 2	39.8	36. 6	38. 6	37. 6	38.6	35.8	36. 1	36. 1	0.0
	出版·印刷	29. 6	30. 0	31. 8	32. 9	32. 4	31. 7	31.6	34. 3	33, 9	35. 4	33. 9	33, 4	33. 9	0.5
	化学品製造	42.6	42. 3	40.8	40.8	41.5	40.3	39. 2	40.1	41.0	40.6	41.6	41.8	41. 2	▲ 0.6
	鉄鋼・非鉄・鉱業	42.7	43.0	43.9	43. 6	43. 1	41.7	41.0	41.9	41. 1	40.9	40.4	40. 7	39. 9	▲ 0.8
	機械製造	46. 2	45. 4	45.8	45. 9	44. 9	43.3	43. 7	43. 4	43. 8	42.9	41.9	42.9	42. 8	▲ 0.1
	電気機械製造	44. 2	45. 2	44.8	45. 4	44. 5	43.3	43. 2	42. 8	43. 2	43. 1	43. 9	42. 9	42. 8	▲ 0.1
	輸送用機械・器具製造	41. 2	40. 2	42.2	42. 1	41. 0	38. 7	39.6	41. 2	41. 5	43.0	44.6	46. 2	46. 2	0.0
	精密機械、医療機械・器具製造	46, 5	46. 2	46, 1	46. 1	46. 3	46.5	49.0	46, 8	45. 6	46. 2	46.8	45. 4	42. 9	▲ 2.5
	その他製造	38. 2	37. 5	35. 4	35. 9	37. 0	39. 1	36. 1	40.8	41. 9	42.7	42.3	43. 8	40. 3	▲ 3.5
	全体	41. 0	41.1	41.6	41. 9	41. 5	40.4	40.0	41.0	41. 4	41.5	41.3	41.5	41. 2	▲ 0.3
	飲食料品卸売	35. 6	35. 8	37.4	38. 8	38. 2	37.5	38.3	42. 1	44. 3	45. 2	44. 9	46. 4	47. 1	0.7
	繊維・繊維製品・服飾品卸売	29. 9	29. 9	32. 4	33. 1	34. 0	34. 7	35. 9	38. 0	41. 9	43. 1	39. 4	39. 5	38. 0	▲ 1.5
卸売	建材・家具、窯業・土石製品卸売	38. 5	37. 5	39.8	39. 5	40. 2	38. 3	37. 2	38.0	39. 1	38. 4	37.3	38. 4	38. 0	▲ 0.4
EH-DL	紙類・文具・書籍卸売	33, 5	34. 5	37.1	37. 0	33. 8	34. 8	35. 6	37. 3	37. 9	40.3	36.5	38. 2	38, 6	0.4
	化学品卸売	43. 0	43. 4	42.6	43. 8	43. 5	42.8	41.7	43.5	44. 9	46.8	45.3	45. 2	45. 1	▲ 0.1
	再生資源卸売	39. 6	47. 0	46.3	43. 5	46. 2	43.3	43. 2	41.7	43. 5	40. 4	38.9	42. 2	40. 9	▲ 1.3
	鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売	39. 3	39. 8	39. 7	40. 2	39. 9	38.5	37. 1	37. 8	37. 9	38. 1	37.5	37. 9	34. 7	▲ 3.2
	機械・器具卸売	42. 6	43. 3	44. 1	44. 1	43. 8	43.0	43.3	45. 2	45. 2	46. 0	45. 4	45. 3	44. 7	▲ 0.6
	その他の卸売	37. 7	38. 2	39.0	39. 6	40. 9	40.0	40.9	42. 3	43. 9	44. 9	43. 2	42. 6	42. 7	0.1
	全体	39. 2	39. 6	40.6	41.0	41. 0	40.0	40. 9	41.9	42. 9	44. 9	42.5	42. 9	42. 7	▲ 0.6
	飲食料品小売	39. 9	40. 2	39.6	43. 2	42. 2	42.3	40. 1	42.7	49. 1	49.7	46.6	46. 2	47. 8	1.6
	繊維・繊維製品・服飾品小売	33. 6	34. 9	38. 7	38. 1	35. 4	34. 2	35. 7	39. 7	36. 6	38. 3	40. 4	41. 4	41. 2	▲ 0.2
	医薬品・日用雑貨品小売	41. 9	39. 5	38. 9	40.6	39. 0	37. 2	38.5	42. 9	47. 8	47.4	45. 9	45. 3	42. 6	▲ 2.7
小売	家具類小売	36. 1	40. 0	37.8	36. 2	31. 0	34. 2	33.3	39. 5	38. 1	34.7	33.3	32. 5	30. 2	▲ 2. 7 ▲ 2. 3
71-96	家電・情報機器小売	32. 7	37. 1	35. 1	35. 3	37. 2	36.3	37. 5	40. 2	37. 8	40.5	38.6	41.3	40. 2	▲ 1.1
	自動車・同部品小売	35. 9	38. 8	37.6	37. 2	35. 3	38. 2	38.7	40. 2	44. 0	41.5	40.6	40.9	42. 0	1.1
	専門商品小売	34. 7	34. 0	33.5	35. 4	34. 8	34. 4	35.3	38. 6	39. 0	39. 4	40. 0	38. 8	38. 7	▲ 0.1
	各種商品小売	38. 0	36. 1	41.3	41. 4	42. 6	42.5	41.0	43.6	47. 8	45. 8	44. 9	48. 1	48, 5	0. 4
	その他の小売	42. 3	32. 1	36.5	41. 4	41. 1	42.3	41. 0	41. 1	41. 7	41.1	45.8	46. 2	42. 2	1 4. 0
	全体	36. 3	36. 7	36. 8	38. 2	37. 4	37.5	37.7	40.6	42. 5	42.4	42.0	41. 9	41. 8	▲ 4.0 ▲ 0.1
運輸・倉庫	- 44 主		38. 2			_		38. 0				42. 2		_	▲ 0.1
理輔 吊 単	N A	37. 3		40.7	41.6	41.6	38.9		41.2	42.1	43.4		43.5	43. 3	
	飲食店	28. 1	31.8	39.0	39. 1	41.5	38.5	42.4	49.8	50.8	56.7	53.6	55. 6	52. 2	▲ 3.4
	電気通信	47. 9	51.9	52.4	50.0	48. 3	47.6	44.4	52.8	52.8	58.3	53.3	60.4	54. 8	▲ 5.6
	電気・ガス・水道・熱供給	35. 9	36. 1	31.1	32.3	36. 7	32.4	32.1	39.7	38. 9	44.0	44.1	44.8	43.5	▲ 1.3
	リース・賃貸	44.7	45.6	47.5	48. 4	47. 4	46.8	47.4	48. 1	50.5	49.7	52.1	49.8	49.0	▲ 0.8
	旅館・ホテル	38. 0	37. 4	53.3	54. 8	52. 2	48.3	48.0	59.5	62. 1	59.8	55.1	56.6	55. 5	▲ 1.1
サービス	2000	40.1	42. 2	45.0	43.8	43. 2 39. 5	42. 1	44.1	50.9	48. 9	50. 4 47. 4	47.6	49.3	48. 8	▲ 0.5
ッーころ	放送 メンテナンス・警備・検査	38. 3 43. 4	46. 1 42. 8	43.1	41. 7	39. 5 45. 6	40.7	41.1	42.6	44. 7 45. 8	47.4	43. 1 48. 0	44. 7 48. 4	46. 1 47. 4	1.4
	メンテナンス・警備・検査 広告関連								45.3						
	広告関連 情報サービス	36. 7 52. 7	39.3	40.9	40. 3 53. 0	39. 7	40.2	41. 4 53. 8	43.7	46.6	45. 0 56. 2	45.0	44.8	45. 2 56. 4	0.4
		9Z. /	53. 0 47. 4	52. 3 48. 8		53.6	53.2		55.5	55.8		56.8	57.0		
		40 0		40.0	46.5	50.0	48.5	47.9	47.3	49.6	50.7	52.0	52.0	50.9	▲ 1.1
	人材派遣・紹介	49.8			40.0	40.7	40 =							E1 0	
	人材派遣・紹介 専門サービス	48.3	49.4	49.0	48.8	48. 7	48.5	49. 2	50.1	50. 9	52.3	51.7	52. 2	51.3	▲ 0.9
	人材派遣・紹介 専門サービス 医療・福祉・保健衛生	48.3 41.2	49. 4 41. 7	49. 0 43. 2	43.6	42.8	42.9	41.5	42.2	41.8	44.6	44.8	44.2	43. 4	▲ 0.8
	人材派遣・紹介 専門サービス 医療・福祉・保健衛生 教育サービス	48. 3 41. 2 39. 7	49. 4 41. 7 43. 7	49. 0 43. 2 42. 1	43.6 42.8	42.8 41.2	42.9 38.4	41.5 41.9	42. 2 44. 4	41. 8 38. 4	44.6 42.2	44.8 41.4	44. 2 40. 7	43. 4 43. 8	▲ 0.8 3.1
	人材派遣・紹介 専門サービス 医療・福祉・保健衛生 教育サービス その他サービス	48. 3 41. 2 39. 7 41. 2	49. 4 41. 7 43. 7 42. 8	49. 0 43. 2 42. 1 43. 3	43. 6 42. 8 43. 5	42. 8 41. 2 44. 0	42.9 38.4 42.2	41.5 41.9 44.3	42. 2 44. 4 46. 5	41. 8 38. 4 48. 6	44.6 42.2 47.5	44.8 41.4 49.2	44. 2 40. 7 48. 2	43. 4 43. 8 47. 9	▲ 0.8 3.1 ▲ 0.3
Z.o.lih	人材派遣・紹介 専門サービス 医療・福祉・保健衛生 教育サービス	48. 3 41. 2 39. 7 41. 2 45. 4	49. 4 41. 7 43. 7 42. 8 46. 3	49. 0 43. 2 42. 1 43. 3 47. 1	43. 6 42. 8 43. 5 47. 3	42. 8 41. 2 44. 0 47. 7	42. 9 38. 4 42. 2 46. 6	41. 5 41. 9 44. 3 47. 4	42. 2 44. 4 46. 5 50. 0	41. 8 38. 4 48. 6 50. 8	44. 6 42. 2 47. 5 51. 6	44. 8 41. 4 49. 2 51. 6	44. 2 40. 7 48. 2 51. 7	43. 4 43. 8 47. 9 50. 8	▲ 0.8 3.1 ▲ 0.3 ▲ 0.9
その他	人材派遣・紹介 専門サービス 医療・福祉・保健衛生 教育サービス その他サービス	48. 3 41. 2 39. 7 41. 2	49. 4 41. 7 43. 7 42. 8	49. 0 43. 2 42. 1 43. 3	43. 6 42. 8 43. 5	42. 8 41. 2 44. 0	42.9 38.4 42.2	41.5 41.9 44.3	42. 2 44. 4 46. 5	41. 8 38. 4 48. 6	44.6 42.2 47.5	44.8 41.4 49.2	44. 2 40. 7 48. 2	43. 4 43. 8 47. 9	▲ 0.8 3.1 ▲ 0.3

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

規模別:「大企業」「中小企業」が2カ月ぶりに悪化、各規模内で二極化進む

- ・「大企業」「中小企業」が2カ月ぶりに悪化、「小規模企業」は3カ月ぶりに改善した。各規模において業種間や企業間で二極化する傾向がみられた。
- ・「大企業」(48.0) …前月比0.6 ポイント減。2 カ月ぶりに悪化。土地や物件価格の高騰で販売が伸び悩んでいるほか、テナントの賃料負担能力が回復途上で、『不動産』の景況感が悪化した。一方で、自動車の生産安定化や好調な海外需要はプラス材料となった。
- ・「中小企業」(44.3) …同 0.3 ポイント減。2 カ月ぶりに悪化。『サービス』は人材派遣・紹介や警備・メンテナンスなど 10 業種が下落し、7 カ月ぶりに悪化した。他方、金融機関の住宅向け融資が積極的だったことから『不動産』の景況感が上向いた。
- ・「小規模企業」(43.5) …同 0.1 ポイント増。3 カ月ぶりに改善。電気機械や飲食料品などの製造業のほか、秋の国内旅行の予約が好調に推移した。他方、台風の影響で飲食店や宿泊業が大きく落ち込んだほか、建設資材の高騰や人手不足の深刻化などが悪材料となった。

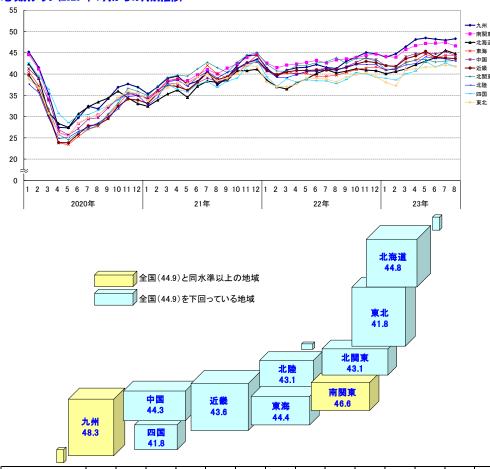
	22年 8月	9月	10月	11月	12月	23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
大企業	43.8	43.6	44.2	45.0	44.8	44.8	44.2	46.1	47.3	48.1	47.7	48.6	48.0	▲ 0.6
中小企業	41.0	41.6	42.3	42.7	42.6	41.6	41.7	43.5	44.2	44.9	44.5	44.6	44.3	▲ 0.3
(うち小規模企業)	39.8	40.7	41.1	41.4	41.3	40.4	40.9	42.4	42.9	43.9	43.6	43.4	43.5	0.1
格差 (大企業-中小企業)	2.8	2.0	1.9	2.3	2.2	3. 2	2.5	2.6	3. 1	3.2	3.2	4.0	3.7	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

地域別:全10地域中7地域が悪化、交通インフラの寸断で人流・物流に影響

- ・『北海道』『中国』など 10 地域中 7 地域が悪化、『九州』のみが改善した。台風の上陸により交通網が寸断され、帰省や旅行などを含めヒト・モノの移動の混乱が下押し要因となった。また燃料価格の高騰も悪材料。他方、インバウンド需要は好調だった。
- 『中国』(44.3) …前月比1.0 ポイント減。2 カ月ぶりに悪化。域内5 県のうち「鳥取」「広島」など4 県が悪化した。特に「お盆の時期に台風の大雨での影響が大きい」など、需要が高まる時期の天候不順で機会損失が生じたほか、工場の操業停止も響いた。
- ・『北海道』(44.8) …同 0.8 ポイント減。7 カ月ぶりに悪化。札幌市を含む道央エリアのほか、道東や日胆エリアがいずれも悪化した。ガソリンなど燃料価格の高騰が自動車で移動する夏のレジャー需要にマイナスとなった。
- 『東海』 (44.4) …同横ばい。域内 4 県のうち「岐阜」「三重」が改善、「愛知」「静岡」が 悪化した。インバウンド需要は引き続き好調に推移した。また、半導体不足の緩和で生産 活動が持ち直したが、月末にかけての自動車工場の操業停止で下振れた。

地域別グラフ(2020年1月からの月別推移)



	22年 8月	9月	10月	11月	12月	23年 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	前月比
北海道	40.2	40.7	41.2	40.9	40.8	40.1	40.6	41.2	42.2	43.0	43.9	45.6	44.8	▲ 0.8
東北	38.1	39.3	39. 9	40.3	39.4	38. 0	37.2	41.1	41.2	41.6	41.7	42.1	41.8	▲ 0.3
北関東	43.8	42.5	43.7	43.7	43.1	40.9	41.4	42.6	43.3	43.4	42.8	43.1	43.1	0.0
南関東	43.3	43.6	43.8	44.4	44.7	44. 1	43.9	45.7	46.7	47.2	47. 2	47.4	46.6	▲ 0.8
北陸	40.8	41.7	42.3	42.2	42.2	40.9	41.2	42.1	42.5	44.0	43.7	43.6	43.1	▲ 0.5
東海	39.7	40.4	41.1	41.4	41.7	41.0	41.1	42.8	43.3	44.6	43.8	44.4	44.4	0.0
近畿	41.1	41.5	42.3	43.0	42.7	42.0	41.8	43.6	44.3	45.4	43.9	43.8	43.6	▲ 0.2
中国	40.9	41.8	42.8	43.8	43.4	41.9	41.8	44. 1	44.8	44.9	44.7	45.3	44.3	▲ 1.0
四国	37.7	38.7	40.3	40.0	39. 3	39. 0	38.6	40.0	40.7	43.0	41.7	42.6	41.8	▲ 0.8
九州	41.3	43.0	44.0	45.1	44.8	44.0	44.8	46. 4	48.1	48.5	48. 2	48.0	48.3	0.3
格差	6. 1	4.9	4. 1	5.1	5.5	6. 1	7.6	6.4	7.4	6.9	6.5	5.9	6.5	

※網掛けなしは前月比改善または増加、黄色の網掛けは前月比横ばい、青色の網掛けは前月比悪化または減少を示す

業界別の景況感企業の声1(農・林・水産~製造)

業界名				TB #5	# 47 ±
	6月	7月	8月	現在	先行き
農・林・水産	46.7	42.5 •	43.0	 ○ 新型コロナが「5類」になってから、特に飲食店の賑わいが戻っている。県をまたぐ移動も多く、景気は上向いていると感じる(農業協同組合) ○ インバウンドの効果が大きい(農業協同組合) × 住宅着工数の極端な減少による大打撃を受けている(素材生産サービス) × 処理水放出にともない、中国・韓国との取引が激減している(魚類養殖) 	 ☆ ○ 米価の上昇に期待(米作農) ○ 本年末は、外食産業および宿泊産業ともに景気が良さそうであるため、出荷数量は2022年比で増加する見通し(施設野菜作農) △ 原材料の高騰や処理水問題の方向次第で左右される(魚類養殖) × 原材料費の値下がりの見通しも一部あるが、依然として高止まりしている(養鶏)
金融	48.1	47.4	48.8	 ✓ 足生水放出にことなく、下国・韓国といな行か協議としてもは無類を指している(投資業) ○ 県や市、民営含めイベントがほぼ毎週開催され、人流が増えている(投資業) ○ 老後の必要資金に対する関心が高まるなか、法改正も後押しし、企業型確定拠出年金や個人型確定拠出年金など全体として拡大基調が続いている(証券) × いまだリスケが見受けられるなど収益改善にはまだまだ時間を要する(信用協同組合・同連合会) 	○ 新NISAへの期待のほか、円安・株高は好環境である(証券投資信託委託) ○ TSMC進出による好影響は続く見込み(投資業) × セーフティーネット融資の返済で資金繰りが厳しくなる企業が増加すると予想(事
建設	46.8	47.8	47.4	 ○ 防災、減災に係る港湾工事や北海道沖での洋上風力発電建設工事の受注が増加している(土工・コンクリート工事) ○ 企業の設備投資意欲が増えている(一般管工事) △ 高規格道路や新幹線工事などが行われているが、人手不足や資材高騰などから、なかなか景気が良いとは言いづらい(一般土木建築工事) × 住宅着工数の減少が顕著。民間物件の非住宅物件も減少している(給排水・衛生設備工事) × 公共工事の激減、資機材価格の高騰、人件費の高騰による影響(土木工事) × ガソリン価格や電気代などエネルギー関連の値上がりが凄まじいなか、客先が価格転嫁を認めてくれない(床工事) 	 ○ 半導体の納期が以前より早まり、受注した器具機材の納期も早まっているため、工事受注の計画が進んでいる(一般電気工事) ○ 土木工事は、洋上風力関係および国土強靭化においての残工事需要が最低でもあと5年間は見込める(一般土木建築工事) ○ 建設業界で働く人材が減る一方であり、限られた人材、施工業者で受注・施工となるため忙しい状況が続く(土工・コンクリート工事) × 仕入価格が高騰しているなか、受注価格は競合により低くなって受注する状況が続いている(電気通信工事)
不動産	50.3	48.8	49.6	 ○ 不動産市況が高値で安定してきている(建物売買) ○ 天神ビッグバンの影響もあると思うが、売買の動きも良い。価格も相場以上であり、価格的にピークであると考える(不動産管理) × 価格が上がり過ぎて取引件数は少ない(土地売買) × 建築資材などの高止まりのほか、某先端半導体メーカー工場建築により当地の工事業者が引っ張られ、業者不足が生じる懸念もある(不動産代理業・仲介) 	○ 仕入れが好調であり、販売力もあるため、来期も増収増益見込み(建物売買) ○ インフレが定着すれば少しずつ景気が上がると考えている(土地売買) △ 商業関係は回復してきたが、インフレで顧客の購買頻度が低下傾向(貸事務所) × 高騰する経費を補えるだけの売り上げは期待できない。特にアルバイトなど人件 費高騰の影響が大きい(不動産管理) × 今後も中国の不動産市況の悪化や原価高騰の影響が続く見通し(建物売買)
製造	41.3	41.5	41.2	○ 自動車製造においては、深刻な半導体供給不足が改善傾向となり、生産台数が回復基調にあると感じる(自動車部分品・付属品製造) ○ 自動車の生産が内示通りで推移している(工業用プラスチック製品製造) ○ 米国向けの製品や航空業界向けの製品に増産がみられる(金属製品製造) △ 観光関係は良いが、電気代や人件費、諸経費高の影響がでている(清酒製造) × 食品やガソリン、光熱費などの高騰で消費者の購買意欲がますます低下している。また、猛暑続きで気持ちが萎え、消費に向かわない(時計・同部分品製造) × 工業系の印刷物の動きが鈍い。また、安定した受注ではなく、突発的に受注が入ることが増えたと実感(印刷) × 製品在庫が増えたために生産調整による減産が多い(プリント回路製造) × 世界景気の減速予測に備え、設備投資を控える動きがある(電気計測器製造)	 ○ EVなど、自動車販売の好調が継続すると考える(プラスチック成形材料製造) ○ 年明け以降に各自動車メーカーの新車計画が動き始めるとみられる(金型・同部分品・付属品製造) ○ PC、スマホ向け半導体の新型コロナ需要の反動がようやく沈静化し、正常な状態に戻りつつある(化学工業製品製造)

【判断理由】〇=良いと判断した理由△=どちらでもない理由×=悪いと判断した理由

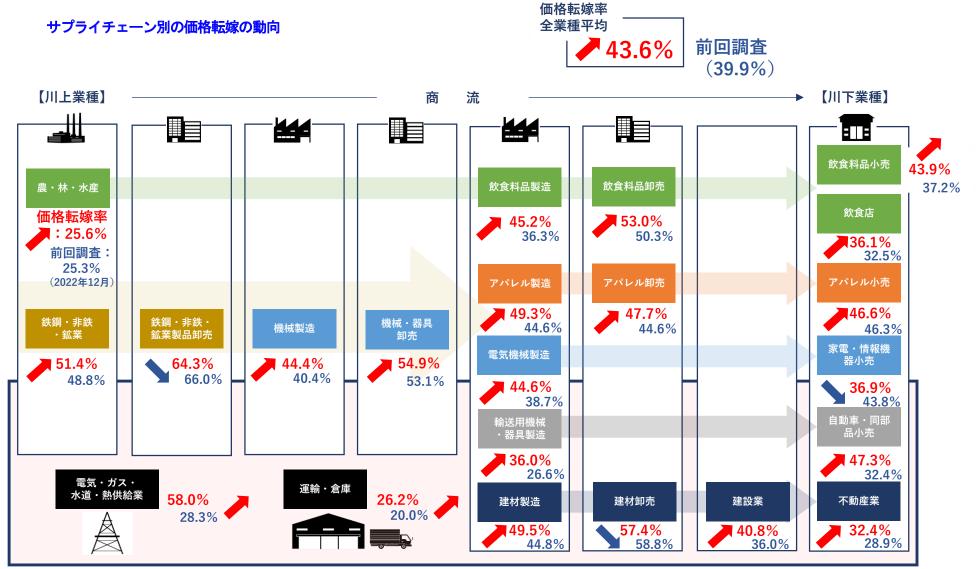
業界別の景況感企業の声2(卸売~サービス)

* = 2						
業界名	i			現在		先行き
	6月	7月	8月	元 江		Mile
←n →	42.5	42.9	42.3	○ 取引先の運輸業者が新しい車両や新しいシステムを導入するため、それらに関連するます。	0	電気代の先高感で、再エネ設備への需要が堅調。また補助金など政策効果もある人、動機は共用を表し
卸売	_	ML.		連する商品などの販売量が増えている(自動車部分品・付属品卸売) ○ 台湾およびインド向けの機械販売が順調(金属加工機械卸売)		る(一般機械器具卸売) 中国からの団体客の復活で「爆買い」に期待している(包装用品卸売)
				○ 台湾やよいイント向けの機械販売が順調(金属加工機械卸売)○ 自動車の生産が戻ってきている。自社の得意先が鋳造部門であるため、増産の		中国からの団体各の復活で「爆員い」に期付している(包装用品町元) 自動車関係が回復しているとの話もあるが、積み増し在庫の消化優先で実需に
					^	つながらず。半導体製造装置の分野は年末以降に回復見込み(非鉄金属卸売)
				× 荷動きが低迷のところに円安傾向で国内価格は高止まり。割高感もあり、需要回	×	円安や燃料高、仕入価格の上昇、材料不足などが響き業界全体の景況感が悪
				復の兆候はみられない(非鉄金属卸売)		い(電気機械器具卸売)
				× 生活必需品の大幅値上げや電気代などエネルギー価格の高騰による消費控	×	中国の不振により当面対中輸出が減りそうである。1年後には代替輸出先、輸入
				え、新型コロナを背景とした生活様式の変化による影響(食料・飲料卸売)		先が出てくると考えている(包装用品卸売)
	42.0	41.9	41.8	○ 値上げした後も店内飲食が順調に回復し、客数の増加が続いている(菓子小売	-	物価が落ち着き、賃金上昇の効果が表れることが期待される(各種食料品小売)
小売	•	•	•	○ 盆休み前半戦は人出・消費とも好調。後半戦は台風にともなう交通機関の混乱	10	現在のインバウンドに加えて、中国人観光客と日本人バスツアーが戻り、良くな
				で不調だったが、差し引くと想定よりプラス傾向である(化粧品小売)	. .	ると考える(洋品雑貨・小間物小売)
				○ 地域のお祭りや花火大会などの再開があり浴衣需要などが増えている(呉服・別 地小売)		インパワンド回復は見込めるか、人材不足による事業縮小も想定される(スポーツ用品小売)
				12 4 727	E .	- /1486 4 /22/
				メ ガソリンや電気代、食料品などの生活必需品の価格高騰により、消費者の買いすえ行動を感じる(寝具小売)	E X	カノリン価格の高騰が続いているだめ、相負者の貝い控えが今後増加するとす 想(ガソリンスタンド)
				× 需要は回復してきているが、原油高騰と補助金削減で価格が急上昇。 今冬は太	×	物価高が継続するなか、依然価格転嫁しづらい。また低価格に慣れてしまった
				ソリンや灯油の節約志向で、需要が低迷する恐れがある(ガソリンスタンド)		中間層を取り込むための価格競争も増加している(婦人・子供服小売)
	42.2	43.5	43.3	○ 旅行および出張需要が動いている(一般旅行)	0	インバウンドの堅調な復活で上向きなところ、中国からの団体客が解禁され爆発
運輸•倉庫	•	P	•	○ 新型コロナ関連規制の解除および海外などからの旅行客の増加により、利用客		的な来日客数の増加が期待できる(一般貸切旅客自動車運送)
				が増えている(一般乗用旅客自動車運送)		自動車関連が復調している(普通倉庫)
				○ 海外からの需要が増加している(こん包)		航空座席の供給量が増え、仕入額や販売数の安定が望める(旅行業代理店)
				× 自動車・船以外荷が少なく、船費等の高騰、船員不足も深刻化(内航船舶貸渡		国内旅行の動きは戻ってきているが、海外旅行は円安や政情不安などでそこま
				× エネルギー価格の高騰、最低賃金の大幅増などコストが先行し上昇している状		で戻らないと考える(一般旅行)
				況で中小企業の価格への転嫁がなかなか進まない(運輸に付帯するサービス)		物価高で物流量が減少。また、値上げが順調に行えていない(集配利用運送)
				× 人件費や燃料などの値上がりに対する運賃への転嫁を認めてもらえない。労働時間短縮も迫られ、運転手などの募集もままならない(一般貨物自動車運送)	×	物価の落ち着きおよび価格転嫁が進まないと一段の回復は難しい(一般貨物自動車運送)
	51.6	51.7	50.0	可能ができる。	+	助単連送り 小規模な地元企業に、システム化の取り組みがみられてきた。DXへの理解が進
サービス	31.0	91.7 @	JU.0	→ 自需・氏帯ともに建機レングル需要は室調にが、建成去性の人子不足が工事度 延要因となっており、景況感は「やや良い」にとどまる(建設機械器具賃貸)	1	みつつあり、ユーザーと決定権者の意識が変わってきている(ソフト受託開発)
, ,,		-10-	_	↑ イベントなどが新型コロナ前に戻っており、訪日外客などによる国内旅行も増加	ما	外国人をはじめ、観光客は増え続けると予想(中華・東洋料理店)
				ている。ただし、台風の被害を受け、回復には時間がかかりそうである(警備)		秋以降に向けて受注量が回復傾向にあるほか、新たなインターネット広告施策
				△ 宿泊需要は高いが、電気料金や仕入価格の高騰により、コストが上がっており、	~	に関する問い合わせが若干ながら増えつつある(広告代理)
				利益がそこまで増加していない(旅館)	Δ	宿泊需要は上がることが予想できるが、仕入れコスト増や人手不足による稼働率
				× インバウンドの少ない観光エリアであるが、客数は減少し、客単価も値上げ分ま		の減少などで需要に対して100%応えることが難しい(旅館)
				で追いつかず低価格商品に流れ、売り上げ横ばい・利益減となった(一般食堂)	×	原油価格高騰のために電気代が値上がりしている(経営コンサルタント)
				× 原油高が続くなか、台風で物流・人流が止まり、損失が大きい(一般病院)	×	物価高に続き、10月からの最低賃金引き上げによる人件費の上昇は自社のよう
				x 猛暑および天候不良によるマイナスの影響を受けている(スポーツ施設提供)		な中小企業にとってかなりの負担になる(個人教授所)

【判断理由】〇=良いと判断した理由△=どちらでもない理由×=悪いと判断した理由

【今月のポイント(1)】 価格転嫁の動向

- ▶ 価格転嫁率は全体で43.6%。前回調査(2022年12月)と比較して上昇がみられるも、依然として4割程度の転嫁状況にとどまる
- ▶ 全商流に関わる『運輸・倉庫』(26.2%)は、2割台にとどまり厳しい転嫁状況となっている



※帝国データバンク「価格転嫁に関する実態調査(2023年7月)|(2023年8月28日発表)

【今月のポイント(2)】 自動車業界の動向

- > 大手自動車メーカーの生産回復にともない「輸送用機械・器具製造」の景気 DI は 46.2 と、上向き傾向が続いている
- ▶ 業界内の価格転嫁は進みつつある。直近の「自動車・同部品小売」は仕入販売ギャップが1桁台で推移した



自動車業界に関する企業からのコメント

企業からの声(抜粋)	業種	都道府県
・自動車製造においては、深刻な半導体供給不足が 改善傾向となり、生産台数は回復の基調がある	自動車部分品·付属品 製造	茨城県
・自動車生産台数の回復にともない、業績は好調を 維持	潤滑油製造	神奈川県
・自動車業界の復調の傾向がみられ、注文増の傾向 が出てきている	金属製スプリング製造	大阪府
・自動車の生産が内示通りで推移している	工業用プラスチック 製品製造	三重県
・三河地区で自動車製造業界に活気が出ており、 様々な周辺企業にも波及しているようだ	労働者派遣	愛知県
・自動車関連のプラスチック着色剤は受注が好調	プラスチック成形材 料 製造	千葉県
・新車生産が未だ不安定	自動車部分品·付属品 卸売	東京都
・大手中古車販売店の問題発覚にともなう、業界の イメージダウンと、ガソリン価格高騰や諸物価の 値上がりにより景気が停滞すると感じる	中古自動車小売	北海道
・中国の自動車市場での日系メーカーが苦戦してい る影響	コネクター・スイッ チ・リレー製造	東京都
・自動車関係の新規設備投資がストップしている	非鉄金属卸売	広島県

調査先企業の属性

1. 調査対象(2万7,667社、有効回答企業1万1,571社、回答率41.8%)

(1) 地域

17 -6-94			
北海道	528	東海 (岐阜 静岡 愛知 三重)	1,240
東北 (青森 岩手 宮城 秋田 山形 福島)	756	近畿(滋賀 京都 大阪 兵庫 奈良 和歌山)	1,931
北関東 (茨城 栃木 群馬 山梨 長野)	932	中国(鳥取 島根 岡山 広島 山口)	782
南関東 (埼玉 千葉 東京 神奈川)	3,461	四国 (徳島 香川 愛媛 高知)	373
北陸 (新潟 富山 石川 福井)	591	九州(福岡 佐賀 長崎 熊本 大分 宮崎 鹿児島 沖縄)	977
		合 計	11,571

(2) 業界 (10業界51業種)

と 林・水産		110		飲食料品小売業	112
		169	小売	繊維・繊維製品・服飾品小売業	98
建 設		1,798	小元	医薬品・日用雑貨品小売業	63
「動産		466		家具類小売業	21
	飲食料品・飼料製造業	337		家電・情報機器小売業	44
	繊維・繊維製品・服飾品製造業	104		自動車・同部品小売業	100
製造	建材・家具、窯業・土石製品製造業	224	(733)	専門商品小売業	225
漱垣	パルプ・紙・紙加工品製造業	92		各種商品小売業	55
	出版・印刷	175		その他の小売業	15
	化学品製造業	391	運輸・倉庫		507
	鉄鋼・非鉄・鉱業	522		飲食店	89
	機械製造業	478		電気通信業	7
(2, 893)	電気機械製造業	312		電気・ガス・水道・熱供給業	18
(2, 033)	輸送用機械・器具製造業	109	サービス	リース・賃貸業	114
	精密機械、医療機械・器具製造業	70		旅館・ホテル	91
	その他製造業	79		娯楽サービス	120
	飲食料品卸売業	327		放送業	17
卸売	繊維・繊維製品・服飾品卸売業	162		メンテナンス・警備・検査業	209
EH 2C	建材・家具、窯業・土石製品卸売業	314		広告関連業	114
	紙類・文具・書籍卸売業	95		情報サービス業	598
	化学品卸売業	247	(2, 241)	人材派遣・紹介業	92
	再生資源卸売業	33	(2, 241)	専門サービス業	321
(2,614)	鉄鋼・非鉄・鉱業製品卸売業	272		医療・福祉・保健衛生業	145
	機械・器具卸売業	840		教育サービス業	51
	その他の卸売業	324		その他サービス業	255
			その他		40
				合 計	11.571

(3) 規模

L	大企業	1,784	15.4%
ſ	中小企業	9,787	84.6%
L	(うち小規模企業)	(3,766)	(32.5%)
Ī	合 計	11,571	100.0%
ı	(うち上場企業)	(229)	(2.0%)

2. 調査事項

- ・景況感(現在)および先行きに対する見通し
- ・経営状況(売り上げ、生産・出荷量、仕入れ単価・販売単価、在庫、設備稼働率、従業員数、時間外労働時間、雇用過不足、設備投資意欲)および金融機関の融資姿勢について

3. 調査時期・方法

2023年8月18日~8月31日(インターネット調査)

景気動向指数(景気 DI)について

■TDB 景気動向調査の目的および調査項目

全国企業の景気判断を総合した指標。国内景気の実態把握を目的として、2002年5月から調査を開始。景気判断や企業収益、設備投資意欲、雇用環境など企業活動全般に関する項目について全国2万7千社以上を対象に実施している月次統計調査(ビジネス・サーベイ)である。

■調査先企業の選定

全国全業種、全規模を対象とし、調査協力の承諾が得られた企業を調査先としている。

■DI 算出方法

DI(ディフュージョン・インデックス〈Diffusion Index〉)は、企業による 7 段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これらを各選択区分の回答数に乗じて算出している。

選択区分	非常に良い	良い	やや良い	どちらともいえない	やや悪い	悪い	非常に悪い
点数	6	5	4	3	2	1	0
各区分の回答数	N_6	N ₅	N ₄	N ₃	N ₂	N ₁	N_0

景気
$$DI = \frac{\left(\triangle \, E \, C \, C \, \Delta \, E \, X \, \times \, \triangle \, E \, C \, C \, D \, D \, E \, E \, X \right) \mathcal{D} \, \triangle \, E}{f \, A \, D \, D \, E} \times \frac{1}{6} \times 100 = \frac{\sum_{i=0}^{6} i \times N_i}{N} \times \frac{1}{6} \times 100$$

景気 DI は、50 を境にそれより上であれば「良い」、下であれば「悪い」を意味し、50 が判断の 分かれ目となる(小数点第2位を四捨五入)。また、企業規模の大小に基づくウェイト付けは行っておらず、「1社1票」で算出している。

■企業規模区分

企業の多様性が増すなか、資本金や従業員数だけでは計りきれない実態の把握を目的に中 小企業基本法に準拠し、全国売上高ランキングデータを加え下記の通り区分している。

業界	大企業	中小企業(小規模企業を含む)	小規模企業
製造業その他の業界	「資本金3億円を超える」かつ「従業員数300人を超える」	「資本金3億円以下」または「従業員300人以下」	「従業員20人以下」
卸売業	「資本金1億円を超える」かつ「従業員数100人を超える」	「資本金1億円以下」または「従業員数100人以下」	「従業員5人以下」
小売業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員50人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員50人以下」	「従業員5人以下」
サービス業	「資本金5千万円を超える」かつ「従業員100人を超える」	「資本金5千万円以下」または「従業員100人以下」	「従業員5人以下」

注1:中小企業基本法で小規模企業を除く中小企業に分類される企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが上位3%の企業を大企業として区分

■景気予測 DI

景気 DI の先行きを予測する指標。ARIMA モデルに、経済統計や TDB 景気動向調査の「売り上げ DI」、「設備投資意欲 DI」、「先行き見通し DI」などを加えた構造方程式モデルの結果を Forecast Combination の手法により景気予測 DI を算出している。

【問い合わせ先】株式会社帝国データバンク 情報統括部

担当:窪田、池田、石井 Tel: 03-5919-9343 e-mail: keiki@mail.tdb.co.jp

©TEIKOKU DATABANK, LTD. 2023

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。 著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

注2:中小企業基本法で中小企業に分類されない企業のなかで、業種別の全国売上高ランキングが下位50%の企業を中小企業として区分

注3:上記の業種別の全国売上高ランキングは、TDB産業分類(1,359業種)によるランキング